

コミュニケーションを円滑にするための支援

〔具体的な状況〕

〔児童の姿〕

〔具体的支援〕

友だちと同じ場所にいるが、ひとり遊びである。

・落ち着いて遊べる環境を確保し、周りのこどもには「そっとしておいてあげて」と声をかけてひとり遊びを保障する。

ひとりで遊んでいるところへ他の友だちが来て人数が増えるとその場から離れていく。

・始めに好きな遊びを通して保育士と1対1の関係をつくる。そのうえで友だち関係が作りやすい相手を把握し、関係が持てるようなサポートをする。

特定の友だちといっしょに遊びたくて執拗に誘う。

・相手が一緒に遊べない時はあいまいにせず「いやだって言ってるよ。残念」とはっきり伝え、目の前から見えない場所に移動してもらう。
・「先生と遊ぶ？（他の）〇〇ちゃんとあそぶ？」など選択肢を示し気持ちを切り替えて遊べるようにする。

ふざけて友だちに必要以上に抱きついたり叩いたりする。

・テンションが上がり過ぎないように、途中で休憩をいれたり仕切りのあるコーナーに移動するなど仲介に入りコントロールする。
・『友だちを叩きません』をクラスルールにする。

自分で転んだ時や友だちとぶつかったりした時、故意にぶつかった、叩かれたと思っ
てしまい、「叩かんといて」と人のせいにする。

・『痛い』というこどもの気持ちを受け止めて興奮する前にその時の状況をていねいに説明する。「痛い」と言うことに執着する時は冷やしたり、傷テープを貼るなど具体的な対応をする。

・好きな遊びや得意な遊びを十分楽しむ中で保育士の介入を嫌がらなくなり、信頼関係が生まれてくる。保育士との関係ができてくると、好きな遊びを通して、友だちとも関わりながら遊ぶことが多くなる。

その場から逃げていかななくてもいいように人数を制限し、少しずつ人数を増やして遊べるようにします。

・友だちの姿が見えなくなると切り替えが早くなる。

「あとであそぼうね」などのあいまいな言葉の理解は難しいので、はっきりとわかる言葉で「いやだって言ってるよ。残念」などを使うと納得しやすいです。

また、選択肢を示されて自分で選んで決めると納得しやすいです。

・楽しいとふざけるの区別ができるように気持ちを言語化したり、コントロールすることで落ち着いてくる。

・『叩きません』をクラスルールにすることで対象児ばかりが叱られることがなく、みんなで守れるようになる。

・説明されると状況が理解でき、気持ちを切り替えて相手に「ごめんね」と言う。

・痛いと何度も訴えていたが、目に見える対応をしてもらうことにより気持ちが落ち着いた。



POINT



POINT

